

令和5年度 第1回能美市総合教育会議 議事録

I 日 時 令和5年12月27日(水)

開会 13時30分 閉会 15時05分

II 場 所 能美市根上総合文化会館 1階 小ホール

III 出席者

【構成員】

市 長	井出 敏朗
教育長	木下 浩明
教育長職務代理	徳野 伸彦
教育委員	竹本 里奈
教育委員	崎山 由樹夫
教育委員	寶達 晶子

【教育委員会事務局】

管理局長、管理局次長兼学校支援課長、教育総務課長、学校支援課長補佐、
まなび文化課長、ふるさと文化財課長、スポーツ振興課長

【司会進行】

教育総務課長

IV 内容

- 1 開会
- 2 市長挨拶

(市長)

年の瀬の極めて慌ただしい中、ご出席をいただき御礼を申し上げたいと思います。少しだけ今年を振り返らせていただきますと、まずは新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたことに伴い、日常が取り戻されました。特に今年は加賀立国能美誕生1200年、そしていしかわ百万石文化祭が開催された年でございまして、合計約20の事業をさせていただき、大変たくさんの皆様にお越しいただき、楽しんでいただいたのではないかなという思いです。また市内の8つの小学校のうち5つの小学校は150周年を迎えた年でもありました。寺井、粟生、湯野、和気、宮竹の順に式典が行われ、私も参加させていただきましたが、大変多くの皆様にご厚志もいただいた年でもございました。加えて10月には北信越図書館の研究大会、同じく10月に県市町の教育委員会の研究大会、そして11月は加南地区教育委員会の研究大会ということで、大きな研究大会が3つも市内で開催されました。その一方で秋になりましたら、インフルエンザが流行し、今はもう終業式を終えておりますが、学期期間中は学級閉鎖等々で我々も対応に追われた1年でもございました。他にも皆さんそれぞれ思うところがおありになるのではないかと思います。概ね平凡にそしてコロナ禍前以上にいろいろなイベントを開催させていただいた、そんな年ではなかったかなという気がしております。

さて、今日は大きく2つの議題に関しまして皆様にご協議をいただく予定でございます。1つ目の能美市教育大綱に関しましては、来年度更新をするということで、今日だけではなく、もう1、2回開催させていただいて、協議をしていただければと思います。もう1つは、不登校児童・生徒への支援についてです。教職員の皆さんや教育委員会が頑張っていますが、現在のところ不登校児童・生徒数は高止まり傾向にございまして、これをどう対策をとっていくかということです。ちょうど令和6年度の予算編成を行っており、皆様からいただいたご意見を予算にも反映させていただければと思っています。約1時間半ほどになりますが、慎重審議を賜りますことをお願い申し上げまして冒頭の挨拶といたします。本日はよろしくお願い申し上げます。

3 議題

(1) 能美市教育大綱の改正について(案)

(2) 能美市「魅力ある学校づくり」

不登校児童・生徒への支援について

(事務局)

能美市教育大綱の改正について（案）教育総務課長が説明

(崎山委員)

施策の具体のところでは意見を言わせていただければと思います。一番上のGIGAスクール構想の部分ですが、本当にこれから必要な部分であろうと思うので、それを一番先に持ってきているところは適切だと思います。それからここに記載されていることはとてもその通りなのですが、GIGAスクール構想で、子ども達の利益に資するだけではなく、「教員の授業力向上を図る」ということも入れたほうが適切ではないかと思いました。

次の2番目の部分なのですが、ここも「知徳体にもつ生きる力を育みます」の前に、「豊かな心の育成」ということを加えた方がよいのではないかと感じます。「豊かな心を培う」などという表現を入れた方が教育の狙いに沿うのではないかと思います。

次に4番目の部分ですが、ここには学校と家庭そして社会に開かれた教育活動を「実現し」と記述されているのですが、「推進し」の方が適切ではないかと思っています。教育活動を推進し、そして狙いに迫っていくという表現がいいと思いました。

それからデジタル技術の部分ですが、デジタル技術の活用を「検討し」とあるのですが、まだ検討の段階なのではないでしょうか。検討の段階というのはもう既に終わって、学校の中でももう既に活用されているので、「より活用の充実を図り」など、さらなる進化のような表現に変えた方がいいではと感じました。

またグローバル化の部分ですが、先ほどの説明でJAISTとの関連が言われていました。先日の加南地区教委連の研究大会でも、JAISTの元山琴菜先生の講演がありました。私も辰口中学校で元山先生の取り組みを国際交流やSDGsの多様性をテーマに何回か聞きましたが、本当に子どもたちに浸透する素晴らしい講演でした。例えば辰口中学校だけではなくて、根上中学校や寺井中学校にも、そのような講演の機会があるといいのではないかと思います。そういう意味でも、ここで

は「J A I S Tの連携を進め」という一言をぜひとも付け加えてほしいと思いました。いくつもあり細かくてわかりにくかったかもしれませんが以上です。

(学校支援課長)

ありがとうございます。まず1つ目の児童生徒の学力を向上させる取り組みのところですが、崎山委員が言われたように、児童生徒の学力を向上させるには、やはり教員の授業力や授業改善ということが欠かせない要素だと考えております。能美市においては、確かな学力を育むために子どもたちが目標を達成して力をつける授業づくり、それから各学校における学力向上プランに基づくICTの積極的な活用による授業改善に今まさに取り組んでいる最中です。そこで崎山委員の言われるように「教員の授業力向上を図るとともに」という文言を追加することを検討してまいりたいと思っております。

それから2点目の「豊かな心を培い」という表現ですが、能美市においても知徳体にわたる「生きる力を育む」というところに、豊かな心を培うということも含んで考えております。特に知徳体におきましては、豊かな人間性を育むとして、道徳教育の充実、あるいはキャリア教育の充実を図って取り組んでいます。またこの表現についても検討したいと思います。

方針の4つ目にあたる、社会に開かれた教育活動を実現する、推進するということですが、能美市においては各学校のコミュニティ・スクールに取り組んでおります。学校と家庭、地域が連携して協働して学校教育を進めております。今後もさらに推進していきたいと考えておりますので、「推進」という言葉でよいのかこれもまた検討してまいります。

(教育総務課長)

5つ目のデジタルの件は教育総務課が回答いたします。このデジタル技術の活用を「検討し」という表現ですが、学校施設につきましては、学校体育館に施設の予約システムや、スマートロックの導入に向けて、今現在協議しております。スマートロックとは、体育館の鍵の貸出しに変わりまして、ドアの施錠解錠をスマートフォンなどで開閉できるような電子錠のことを指しております。令和6年度からは、まずは市内の体育施設とコミュニティセンターから試験的にスマートロックの導入

を検討しております。予定では、実証実験を経て令和7年度から学校体育館にも導入して、デジタル環境の整備を進めていきたいと今考えております。この計画では令和8年度までの計画ですので、崎山委員が言われるような方向も含めて、文言の修正を検討してまいりたいと思います。以上です。

(学校支援課長)

最後に崎山委員からのグローバル化を見据えてJ A I S Tとの連携という部分についてお答えいたします。能美市においてはJ A I S Tと連携しまして、能美グローバル・コミュニケーション・プログラムを行っております。今年度は宮竹小学校と辰口中学校で行いました。このプログラムを受けまして、宮竹小学校の児童、辰口中学生の生徒それぞれに、やはり多様性の理解や自分らしさの気づきというような感想が多く寄せられました。教育委員会としても現在のところ来年度以降、継続して取り組んでまいりたいと考えています。さらに、崎山委員のおっしゃるように、辰口中学校だけでなく、根上中学校、寺井中学校でも実施できるように検討してまいりたいと思っています。さらに国際交流については、現在J A I S Tの学生に参加を協力いただきまして、市内8小学校、3年生以上の全てのクラスに、年2回入っていただきまして、それぞれの国の紹介や、英語を使つてのコミュニケーションの活動をしていただいております。J A I S Tとの連携につきましては、不可欠だと思っておりますので、「J A I S Tとの連携を進め」という文言については、追加することを検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

(司会進行)

5つの質問に対し担当課から回答いたしましたが、崎山委員いかがでしょうか。

(崎山委員)

ありがとうございました。

(寶達委員)

崎山委員のご質問はとても具体的で専門的でしたが、私は地域の一人として感じたことをお伺いしたいと思います。不登校をはじめ、行き渋りや学校の中でも孤立

してるような子どもをよく私も見かけます。本人と保護者を支える、安心して学習ができるという子育ての環境作りがこれから今まで以上に必要になってくると思うので、そういう点を何か施策に明記できないかと思いました。

それと生涯学習の施策の具体のところ「地域活動の拠点となる自治公民館に」と書いてある部分についてです。公民館の整備も必要だとは思いますが、地域活動の拠点となるのは、公民館だけではないと常々感じます。もっと多世代、また地域にわたる交流の場作りや居場所作りというものがとても必要になってくると思います。子どもたち、また年をとってから、人と人を繋ぐ場というのが公民館以外にもあってもよいのではないかと思った次第です。以上です。

(司会進行)

ありがとうございました。大きく2点のご質問をいただきました。1点目の不登校に関しまして、学校支援課からお願いいたします。

(学校支援課長)

寶達委員におかれましては、いつも浜小学校において朝の子どもたちの出迎えや声かけを丁寧にしていただきまして本当にありがとうございます。学校からも子どもたちは地域の方に守られながら、元気を取り戻したりしているという話は聞いております。後からの協議にも出てまいります。能美市においても、今言われた不登校が大きな課題だと捉えております。この問題で悩んでいる児童・生徒、保護者をしっかりと支える必要があると考えています。そのためにまずは学校生活の大部分を占める授業における生徒指導4つの視点というものを生かした授業づくりに取り組んでいきたいと思っております。そのことによって、子どもたちの居場所をしっかりと学校に作っていききたいと考えてます。この後の議題で少し現状や取り組みを提案させていただきますので、その中でまたご意見をいただければと思います。また不登校の文言についても検討してまいりたいと思っております。

(司会進行)

もう1点、生涯学習の関係でご質問いただきましたので、まなび文化課からお願いいたします。

(まなび文化課)

ご質問いただきありがとうございます。現在市内の全町会町内会の自治公民館にW i - F i の環境整備を行っております。自治公民館がデジタルサービスの拠点、デジタル公民館として多世代や他分野の交流を促しまして、人と人が繋がる場の創出になることを目指しております、町会町内会がデジタル公民館を運営していくにあたっての支援を行っていきたいと考えております。自治公民館にタブレット端末を持った小学生が集まったり、オンライン講座やeスポーツを楽しむ高齢者などが気軽に訪れるなど、これまでにない多世代交流の拠点となることを期待しております、今回の大綱に掲載をさせていただきました。ただ根上総合文化会館や寺井地区公民館、辰口福祉会館やコミュニティセンターではいろんな各種講座も行っておりますし、市内の図書館ではおはなし会やブックスタート、それから児童館などでも地域の方々のふれあい交流の機会を提供しており、こういった活動を通じて交流の場作りや居場所作りにも取り組んでいきたいと思っております。今いただきましたご意見をいただきまして、文言も修正、検討をしていきたいと思います。以上になります。

(司会進行)

寶達委員、今ほどの各課長からの答弁でいかがでしょうか。

(寶達委員)

大丈夫です。ありがとうございます。

(教育総務課長)

それでは続きまして、徳野委員いかがでしょうか。

(徳野委員)

私は青少年の健全育成というところで少しお話をさせていただきたいと思います。

1つは、先ほどの寶達委員のお話にもありましたように不登校の件です。私は年に2回県市町の教育委員の意見交換会に参加させていただいていますが、今年是不登校が大きなテーマとして掲げられていました。また、先日の市議会でもこの不登

校が議題に出たと新聞で拝見しました。やはりこの青少年の健全育成というものも非常に大きなキーポイントのひとつになると思っています。これは学校だけでできることではないと思っています。学校、家庭、地域、そして警察などと連携し、非行の防止につなげる、そして、朝夕の見守り隊の方を拝見するたびに本当に頭の下がる思いでいます。この中で、「家庭教育の充実」に関して、地域も大事ですが、やはり家庭内でまずしっかりとしつけや教育をしなければならないのではないかと思います。ここに記述している「家庭教育力の向上を目指す」というところで、学校として各家庭においてどのように家庭教育力を向上させるのか、具体的な施策が考えられているのであればお聞きしたいですが、非常に難しい問題でもあると思っています。それともう1つは私自身も寺井中学校の学校運営協議会委員としてわずかばかり活動させていただいていますが、この組織自体がまだなかなか市内で周知されておらず、また委員さんの選出に関しても少し偏りがあるのではないかと感じています。地域別でもいいので教育委員会も協力し、幅広くいろんな人材を集め、よりよい協議会になっていってほしいと思います。

(司会進行)

ありがとうございます。徳野委員からも2点ご意見をいただきました。それでは学校支援課から答弁をお願いいたします。

(学校支援課長)

まずは青少年の健全育成についてですが、学校教育のほうにご質問をいただいたということで、私から回答させていただきます。学校では、不登校に関して心配事や悩み事を抱えている保護者に対しては、個別に時間をとって課題が解決するような対応を継続して続けています。また、ここにありますように生活習慣の確立、あるいは規範意識の向上、それからインターネット、現在でいいますと1人1台端末の適正な利用方法につきましては、学校だよりや保健だよりなどで啓発したり、年度初め、あるいは長期休業前等に情報提供を適宜行っております。また、家庭教育力の充実という点におきましては、家族が揃って一緒に過ごす時間を多く持たせていただく、一緒に生活や活動することができる環境を整えることが重要だと捉えております。そこで教育委員会においては、親子揃って参加できるような体験活動や、

交流活動などの機会を工夫しまして、魅力ある事業を行っていくことで、家庭教育力の向上に取り組んでいきたいと考えております。

2点目の学校運営協議会委員についてですが、この委員の選考にあたっては、学校長とコミュニティ・スクールのディレクター、会長が十分に話し合いを行い、地域の方とよく繋がれる方、このコミュニティ・スクールの活動に理解を十分していただける方、協力していただける方をお願いをしています。コミュニティ・スクールの目標にも、できるだけたくさんの方と繋がっていくということがありますので、教育委員会としても、地域の人材の情報をしっかりと集め、地域と学校との架け橋になっていただける方々の協力を得られるようにして、さらにこの地域とともにある学校を作っていけるよう推進していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。以上です。

(徳野委員)

1つお聞きしてもいいですか。家庭教育力の向上のために、親子で参加できる機会を設けたりすることも必要だと思いますが、例えば運動会や参観日などの保護者の方の参加者数はどれくらいかわかりますか。おそらく昔に比べたら増えているのではないかと思いますのですが、それがPTAの参加率と乖離しているのはなぜなのでしょう。家庭に入っていくことはとても難しい話だと思いますが、でもこの家庭教育力の向上という部分はとても大切なのではないかと感じます。

また、運営協議会は実際に委員選出の偏りが見られるため、何か別のルールがあってもいいのではと思いましたので質問させていただきました。以上です。

(学校支援課長)

授業参観等の参加者数は今手元に資料はないのですが、感覚としては授業参観や行事等をした場合に、保護者の方の参加は多くなっていると感じます。一方、PTA行事等になると、逆に少し参加率が下がっているのではないかという感覚を持っています。コロナ禍でもあり行事等も控えていましたので、今年度あたりからまた復活しておりますので、各学校においても新たな視点を持ったり、どのようにしたら参加いただいたり興味を持っていただけるか検討しながら、改善に向けて取り組んでまいりたいと思っています。

(司会進行)

次に竹本委員お願いいたします。

(竹本委員)

私も専門的なことはわからないので、小学生2人の母親として、少し個人的な意見になるかもしれませんがよろしくお願いします。私はスポーツの振興について意見を述べさせていただきたいと思います。施策の具体案に関しては訂正という部分はなくとてもわかりやすいと思いました。希望を言わせていただくと、スポーツを始めるきっかけがほしいと思ってしまして、ここに「市民誰もがいつでもスポーツに親しむことができ」と書いてあるのですが、もっと気軽に運動ができる場所や機会があるといいと思います。運動がしたいと思って何か習い事をする、週に4回、5回行かなくてはいけなくなる場合もあります。そうすると親も子も少しハードルが高いというところもあり、何か本当に気軽にできるといいなと思っています。

もう1つが中学校の部活についてなのですが、地域クラブへの移行が一部進んでいます、実際活動するのは子どもたちなので、子どもたちの希望ももう少し聞いてもらえたらと思います。本格的にスポーツをしたいという子もいれば、サークル的な活動、友達と一緒に楽しむ活動をしたいという子も多分いると思うので、今は検討の真っ只中だと思うのですが、個々のレベルによって選択肢があるといいと個人的には思いました。地域クラブに全部移行してしまい、部活をしなくてもいいということになると、それならやめようかなと言っている子の意見も聞いたことがあります。そうすると子どもとしてどうなのか、親としてどうなのか、ということは感じます。以上です。

(司会進行)

ありがとうございます。竹本委員から2点ご意見をいただきました。最初にスポーツを始めるきっかけについてはスポーツ振興課から回答をお願いいたします。2点目の中学校の部活動の地域移行については学校支援課から回答をお願いいたします。

(スポーツ振興課長)

ご意見ありがとうございます。スポーツ振興課では、スポーツ振興の一環といたしまして、まちづくり出前講座というものを実施し、ニュースポーツの紹介をしています。そのほか、スマートフォンアプリを活用して、毎日の運動習慣をサポートするウオーキングやランニングといったオンラインイベントに参加を呼びかけるなどして地域や団体、個人が参加しやすい運動の機会を作っております。今年度の出前講座はこれまで13回開催しており、693名の方に参加いただいております。また5月のウオーキング、ランニングのオンラインイベントにつきましては、10の企業に参加していただいております。10月に行われた同様のイベントにも多くの市民の方が参加しました。またその他、55歳以上の方を対象とした健康教室やジュニアを対象としたスポーツクラブに関しては17競技41団体ありまして、多くの方に参加していただいております。また能美市ふるさと振興公社が主催するからだバランス塾も全35講座あり、スポーツを始めるきっかけづくりに大変良い場となっているかと思っております。市民の方がそれぞれの年齢や体力、目的に合わせた講座を選択できると思っておりますので、スポーツを始めるきっかけとして、ぜひとも役立てていただきたいと思います。以上です。

(学校支援課長)

学校支援課からは部活動の地域移行についてお答えします。この件に関しては今年度部活動のあり方検討委員会を立ち上げました。検討委員会では4回の協議を経て提言を12月に取りまとめたところでございます。検討委員会の中でも、競技力だけでなく、多様な活動ができる環境が必要であるというご意見がありました。部活動の地域移行においては、子どもたちの思いが大事だと思いますので、この思いを大切にしながら、多様な環境を作れないかどうか今後引き続き検討してまいりたいと思います。以上です。

(竹本委員)

ありがとうございました。

(司会進行)

委員の皆様ありがとうございました。皆様から全体を通したご意見、ご感想がございましたら、一言ずつお願いしたいと思います。崎山委員から順にいかがでしょうか。

(崎山委員)

今ほどの答弁をお聞きして、能美市においては学校教育全体として、様々に考慮されて、施策を推進されていると感じました。ぜひともそれが形、成果になって繋がっていければと思います。不登校についてはこの後の議題のところで意見を言わせていただきたいと思います。デジタル環境という言葉が多く出てきましたが、最近中学校の授業を見ていて、特に英語のデジタル教科書に関連して多いのが、授業中にモニターの映像、特に動画のところで音声が出ないということがあります。それは英語科特有の障害なのか、あるいはその接続機器等の劣化なども原因にあるのかと思うのですが、今後ともデジタル環境の維持、整備ということも、各学校からきっと要望が出てくると思いますので、こちらも手厚く支援していただければありがたいということを感じました。以上です。

(寶達委員)

学校教育についての感想になりますが、今まで教育委員になって各学校を回らせていただいた時に、先生がとても忙しそうで余裕があまりないように感じました。難しいかもしれないですが、先生がもう少しゆとりを持つことで、子ども1人ひとりに向き合える環境になり、子どもがそれぞれ自分は大事にされていると感じることができれば、最近希薄になっている自己肯定感とか存在感を実感させることができるのではないかと思います。そのような心の面の対応が先生に求められるのかなと思っています。また、開かれた学校ということで、学校だけでは体験できないことも多々あると思うのでそういう点では、地域の皆さんが協力しているところもありますが、そういうことを今後一層取り組むことが重要かと思います。子どもたちも生きる力や豊かな心っていうのが育つと思いますが、私たちのような地域のものにとっても気持ちが豊かになっており、お互いにいい出会いになっていると感じます。そういう点でも、これからさらに開かれた学校を望みます。以上です。

(徳野委員)

I C TやD X、デジタル化で時代の流れに沿って、教員の方の負荷も減らしていかなければならないという実情と、あくまでそれは教育に対する手段でありますので、やはり本当は学校と児童・生徒の心の通った部分の教育をぜひお願いしたいということです。それと学校教育の施策に出てきたグローバル人材に関してですが、私も企業の経営者として能美市内にもたくさん海外との接点を持たれている企業や、海外の方を雇用されているところが幅広くあります。今ここには具体策を持ち合わせていないのですが、またそのようなご協力も幅広くできるのではないかと思います。様々な形でこの地域で活用していただけるものは活用していただければいいというふうに思っています。

また教員に関しては、私も特に企業の採用面でいろんな方と会っていると、最近社会に出られてもコミュニケーションが十分に取れない方や、約束を全く守れない方、心の病んでいる方が増加しているというのは私も目の当たりにしています。本当に大変なご職業だと思いますが、まずは子どもたちとしっかり向き合い、育てていってあげてほしいというのが私の気持ちであり、お願いであります。以上です。

(竹本委員)

皆さんが仰ったことと同じことなのですが、先生が忙しすぎるという問題があるのではないかと思います、各学校で判断できることを増やしていただいて、働き方改革に繋げていただけるといいと思います。また普段子育てをされていて思うことが、子どもたちの考えについて、大人がいろいろと子どものためを思って決めていることが、実は子どもたちは望んでないことかもしれなかったりするのではないかと思います。もっと子どもたちの声を聞く場所があるといいなと思います。それと同時にいろんな人との交流によって子どもたちの世界を広げてあげられるといいなと思います。以上です。

(司会進行)

ありがとうございました。以上で議題1につきましては、終了したいと思います。今後のスケジュールについて簡単にご説明いたします。教育委員の皆様には、

来月 1 月 18 日に開催されます教育委員会会議で、本日の会議でいただいたご意見等を反映した教育大綱（案）をお示しいたしまして、再度のご意見をいただきたいと考えております。あわせて来月上旬には、パブリックコメントを実施しまして、市民の皆様からのご意見を募集する予定でございます。皆様からいただいたご意見を踏まえて内容を精査した上で、来年 2 月を予定しております第 2 回目の総合教育会議を開催させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。続きまして議題の 2 の方に移らせていただきます。

（事務局）

能美市「魅力ある学校づくり」不登校児童・生徒への支援について学校支援課長が説明

（崎山委員）

今ほどの説明で概ね非常によく整理され、実践に繋がられているというふうに思いました。私が思うのは生徒指導の 4 つの視点を生かした授業について、先ほどの教育大綱の 3 番目にもそのような授業改善をとにかく書いてあるのですが、しっかりと子どもたち一人ひとりに目が行き届いている、あるいはそういう子どもの気持ちをしっかり考慮して対応されている先生というのはやはり本当に授業力が高いと思うのですが、実際のところ授業を見ると、頭では分かっているにもかかわらず実践できる先生の割合はまだまだ高くはないかなと思います。この部分の力をつけるというのは非常に難しいところではあるのですが、ぜひともこの生徒指導の 4 つの視点を生かした授業づくりがより実践に繋がられる、そして子どもたちの困り感に気づいたり、配慮が行き届くような授業がもっと見られたらと思います。

2 つ目は教室の整備についてです。辰口中学校や寺井小学校の教室は委員も見学させていただきましたが、非常に効果的だと感じております。ぜひともこの教室がさらにより整備されて、辰口中学校のようにパーテーションで仕切られたような環境、あるいは全体で学べるような環境を、どの学校にも作っていただけたらと思います。

こういうところに来ることで子どもたちは安心感を持ちますし、とても不安はあると思うのですが、居場所があるということは子どもたちの所属の欲求や承認の欲求を非常に満たすと思います。ただ学校としては、空き時間の先生方や支援の先生

方が代わる代わる対応するというのも難しいですので、今ほど申されたような指導員の配置というものも人事案件で大変だと思うのですが、ぜひとも市長さんにも理解いただいて進めていただければということを強く思います。私の意見は以上です。

(学校支援課長)

ありがとうございます。崎山委員が言われたように、やはり授業改善に関しては簡単なようでなかなか難しい問題です。やはり落ち着いている教室、子どもたちが一つの輪になっている教室にはそれなりの訳があります。先生の声かけや子どもたちの心を一つにする、そのような共感的な人間関係が育まれている様子が見られます。引き続き、どの学級でもどの学校でも行われていくように各学校と連携しながら、教育委員会からはしっかりとした指導を行ってまいりたいと思っております。

それから環境整備につきましては、なかなか一足飛びでいかないかもしれませんが、できるところからまずは取り組んでまいりたいと考えております。

(寶達委員)

質問ではないのですが、子どもの困り感というものを家庭の中に持つて居ると感じる場合があるのですが、先ほどのご説明で子どもの総合相談窓口というのがあると聞いて、学校支援課だけではなくて各課が横並びになって、そのような家庭の保護者の相談にもものれるというシステムはとても大事だと思い、非常に期待しています。以上です。

(司会進行)

委員の皆様、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。それでは市長の方から、全体を通したご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(市長)

まずは貴重なご意見ご提言、ご質問ありがとうございました。4つほど述べさせていただきたいと思います。教員の授業力の向上というお話がございました。教育大綱でG I G Aスクール構想を進めていく、また不登校の問題での教員の質を高め

ていく、それから児童生徒をしっかり見ていくという点においても、教員の授業力の向上は大変重要なポイントであるということを感じました。教員数を増やすということはこれは文部科学省等いろいろな問題があるということから、いかに支援員等を増やして教員をサポートすることで、教員一人ひとりが児童や生徒と向き合う時間を広げていくかということがポイントであろうかと思いますので、しっかりと対応していきたいと思っています。

2つ目に、スポーツを始めるきっかけを出したらどうかというご提言をいただきました。おっしゃる通りでございまして、今能美市ではeスポーツやニュースポーツを市民の皆さんに紹介をして始めるきっかけをつくったり、今年度プロの選手やコーチに来ていただいたことで、改めてスポーツに興味を持った児童生徒が多くなってきているということも聞いておりますので、来年度も引き続きこういった機会を通してスポーツを始めるきっかけ作りを増やしていきたいと思っています。

そして居場所づくりのお話をいただきました。この居場所づくりと同じ観点でその交流の場を広げるということもございました。おそらく建物を建てるということではなくて、機会を設けたらどうかということだと思うのですが、最近ではこども食堂の存在が極めて重要視されておりました、特に緑が丘で取り組んでいらっしゃるオアシスつるしんという場所があります。本当に多くの子どもたちだけではなくて高齢者や子育て世代の人たちが夏休み等々だけではなく、日中もたくさん来ていらっしゃるという話を聞いています。現在能美市では地域力強化支援ファンドという制度も設けておりますので、こういったファンドを活用しながら、居場所作りにも努めていきたいと思っています。

最後に家庭教育力の向上に関するご提言がありました。私も改めて家庭教育力とは何かということを思っておりまして、例えば両親やおじいちゃんおばあちゃんが子どもたちに勉強を教えることが家庭教育力なのか、または社会人としてのマナーをもっと身に付けなさいということがそれにあたるのかということを少し自問自答しております。やはり教育大綱にこれを書く以上は、家庭教育力とは何かということがわかるように明記をする必要もあるのではないかと思います。それに伴って何をしていけばいいのかということが、さらに掘り下げてここに記載できるように、我々もまた考えていきたいと思っています。

本当に今日 12 月 27 日という極めて年の瀬の慌ただしい中で、約 1 時間半もお付

き合いいただいたことに改めて感謝を申し上げ、良い年を迎えられることをご祈念申し上げます、お言葉とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

4 教育長閉会挨拶

今年度は3月までありますが、本日12月27日にここで今年の反省をすることが、来年の1月からの実践に繋がっていく、そういう点では大きな意味のある一日だったというふうに思います。ご参加いただき本当にありがとうございます。改めて感じたことは、私達はやはり良い結果を得たい、そのためには良い準備をしなければいけないのだということを、今日の総合教育会議で改めて感じました。事務局を中心に、改めてその部分をしっかりと見直していきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

5 閉 会

15時05分終了